

第6節 放射能対策

現状と課題

平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震により東京電力株式会社福島第一原子力発電所の施設が深刻な被害を受け、大気中に放射性物質が放出されました。この事故により、県内においても、放射性物質による健康への不安や農産物の風評被害など、様々な方面で影響が生じています。

県では、こうした不安を取り除き、県民の安全・安心を確保するため、空間放射線量の測定、水道水や農作物の放射性物質の検査など、様々な対策を講じています。

なお、記載の内容については平成25年4月から同26年3月末時点までの状況となっています。

施策の展開

(1) 空間放射線量

ア モニタリングポスト

原発事故や海外における核実験による影響を把握するために、県下7箇所（長野市、松本市、飯田市、諏訪市、大田市、飯山市及び軽井沢町）で空間放射線量を連続監視しています。

測定結果は、7か所全てにおいて、降雨（降雪）時の一時的な上昇を除いて、ほぼ一定の水準で推移し、一時的な上昇時を含めても国際放射線防護委員会（ICRP）の年間被ばく限量（1 mSv）の時間換算値0.19 μ Sv/h（自然放射線除く）を下回りました。

→「資料編：図2-4-36 モニタリングポストによる空間放射線量の推移」p.168

イ サーベイメータ

簡易測定器であるNaIシンチレーション式サーベイメータにより、県内5地域（中野市、上田市、佐久市、伊那市、木曾町）で定期的に測定を行っています。また、地上15mにモニタリングポストが設置されている長野市においても、サーベイメータにより地上1m高さの空間放射線量を毎月測定しています。いずれの地域でも空間放射線量に大きな変化は見られませんでした。（表2-4-50）

表2-4-50 サーベイメータによる空間放射線量測定結果

(単位: μ Sv/h)

測定場所	H25									H26		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
中野市	0.07	0.07	0.08	0.07	0.07	0.06	0.06	0.07	0.06	0.07	0.07	0.07
上田市	0.05	0.04	0.05	0.05	0.04	0.04	0.05	0.05	0.04	0.05	0.03	0.04
佐久市	0.05	0.05	0.06	0.06	0.05	0.05	0.05	0.06	0.06	0.05	0.05	0.06
伊那市	0.08	0.08	0.07	0.07	0.07	0.07	0.07	0.08	0.07	0.07	0.06	0.06
木曾町	0.09	0.09	0.09	0.09	0.09	0.09	0.10	0.09	0.09	0.08	0.09	0.09
長野市	0.06	0.06	0.06	0.06	0.06	0.05	0.06	0.06	0.05	0.06	0.05	0.06

(2) 水道水

県環境保全研究所において、毎平日に採取した上水（蛇口水）を3か月分まとめて蒸発・濃縮し、ゲルマニウム半導体検出器により測定しています。

この他、県内8地域（上田市、飯田市、中野市、塩尻市、佐久市、軽井沢町、下諏訪町及び箕輪町）の水道水についても月1回測定を実施しました。

いずれも、放射性物質は検出されませんでした。



ゲルマニウム半導体検出器

(3) 降下物

降下物とは、大気中に浮遊している塵（ちり）等が地表に降下してくるものであり、県環境保全研究所に設置した専用の採取器により降下物を毎日採取し、1か月分をまとめてゲルマニウム半導体検出器により測定しています。平成25年度の検査では、ごく微量の放射性物質が検出されました。(表2-4-51)

表2-4-51 月間降下物測定結果

採取期間	月間降下物測定結果		
	ヨウ素-131 (MBq/km ²)	セシウム-134 (MBq/km ²)	セシウム-137 (MBq/km ²)
平成24年4月1日～5月1日	不検出	0.14	0.20
5月1日～6月3日	不検出	0.14	0.25
6月3日～7月1日	不検出	0.13	0.32
7月1日～8月1日	不検出	0.095	0.17
8月1日～9月2日	不検出	不検出	0.080
9月2日～10月1日	不検出	不検出	0.068
10月1日～11月1日	不検出	0.057	0.16
11月1日～12月2日	不検出	0.20	0.50
12月2日～1月6日	不検出	0.10	0.26
平成26年1月6日～2月3日	不検出	0.14	0.31
2月3日～3月3日	不検出	0.28	0.70
3月3日～4月1日	不検出	0.13	0.31

(4) 県内産農林畜産物など

県内産の農林畜産物など（野菜、果実、穀類、牛乳、山菜、キノコ、肉など）について、その安全性を確認するために放射性物質の検査を実施しています。検査には、ゲルマニウム半導体検出器、シンチレーションスペクトロメータを使用しているほか、外部の検査機関にも委託しています。

ア 野菜・果実・穀類・畜産物

県内産のもので市場に流通する前のものを、種類別、時期別及び産地別に分類し、それぞれ多数のサンプルを抽出して測定しています。平成25年度に161検体を検査し、全ての検体から放射性物質は検出されませんでした。(表2-4-52)

表2-4-52 県内産野菜・果実・穀類・畜産物・特産物の検査

品目	検査時期	検体採取場所
野菜	レタス	5～7月 塩尻市、御代田町、東御市、軽井沢町、川上村
	リーフレタス	5～7月 塩尻市、小諸市、川上村、東御市
	ハクサイ	6月 松本市、佐久市、軽井沢町、佐久穂町、木曽村、小海町
	キャベツ	7月 軽井沢町、南牧村
	ホウレンソウ	8月 南牧村
	チンゲンサイ	5月 小諸市、松本市、南牧村
	アスパラガス	5月 中野市、飯山市
	ブロッコリー	6～7月 伊那市、小諸市、松本市、南牧村
	セルリー	5～6月 松本市、原村
	パセリ	7月 茅野市
	ネギ	9月 松本市、鹿野町
	キュウリ	6～7月 飯田市、高森町、長野市
	トマト	7～8月 長野市、安曇野市、松本市、中川村、東御市、長和町、阿南町
	ピーマン	7月 桑原村
	インゲン	7月 塩尻市
	スイートコーン	7月 伊那市、松本市
	ズッキーニ	7月 飯山市
	ダイコン	6～8月 茅野市、栗村
	タマネギ	8月 千曲市
	ナガイモ	9～11月 山形村、長野市
野菜菜	11月 飯山市	
果実	リンゴ	8～10月 飯綱町、松川町、上田市、立科町、安曇野市、松本市、伊那市、中野市、小布施町、山ノ内町、長野市
	ブドウ	8～9月 松本市、坂城町、中野市、小布施町、東御市
	ナシ	8～9月 塩尻市、豊丘村、飯島町、長野市、中野市
	モモ	7～8月 長野市、中野市、小諸市
	小梅	5～6月 阿智村、長野市
	イチゴ	11月 善木村、小諸市
	スイカ	7月 松本市、駒ヶ根市
	柿(干し柿)	11月 高森町
	くるみ	10月 東御市
	ブルーベリー	7～8月 須坂市、佐久市
	プラム	8月 高山村
	アンズ	8月 千曲市
穀類	米	8～9月 大町市、安曇野市、飯田市、松本市、大箕村、飯島町、小谷村、白馬村、佐久市、伊那市、辰野町、中野市、根羽村、桑島村、善木村、茅野市、小海町、軽井沢町、立科町、富士見町、木曾町、上田市、栄村、千曲市、須坂市、信濃町、長野市、木曽村、長和町
	大麦	8月 千曲市、松本市、駒ヶ根市
	小麦	7月 伊那市、長野市、安曇野市、上田市
	大豆	11月 長野市、松本市、伊那市、佐久市
	そば	7～10月 駒ヶ根市、信濃町、大町市、茅野市、小諸市
畜産物	原乳	4～12月 松本市(5検体)、麻績村、筑北村、木曾町、大泉村、木曾町、王滝村、中野市、飯綱町、高山村、南牧村(2検体)、安曇野市(2検体)、富士見町(3検体)、伊那市、箕輪町、南箕輪村、大町市、松川村、上田市(2検体)、長和町、小諸市、軽井沢町、山形村、茅野市(2検体)、原村(2検体)、千曲市、青木村、飯田市、阿南町、下條村、長野市、朝日村
	牛の肉	8月 安曇野市

イ キノコ

野生キノコの検査を実施したところ、小諸市及び佐久穂町で採取された検体から基準値(100Bq/kg)を超える放射性セシウムが検出され、国から原子力災害特別措置法に基づく野生キノコの出荷制限指示が、それぞれ平成25年10月1日付け及び10月21日付けで発出されました。これにより、野生キノコの出荷制限市町村は7市町村(軽井沢町、御代田町、小海町、南牧村、佐久市、小諸市、佐久穂町)となりました。

原木栽培キノコの検査の結果、放射性セシウムを数検体で検出しましたが、いずれも基準値以下でした。

なお、栽培キノコ(菌床)生産は、国産・輸入資材を培地原料として調整し、栽培施設内で生産されることから、農家ごとに培地原料が異なる場合も生じるため、生産者単位に、エノキダケ、ブナシメジ、エリンギなどのスクリーニング検査を実施しています。平成25年度には898検体を県松本家畜保健衛生所に設置したシンチレーションスペクトロメータを使用し簡易検査を実施したところ、全ての検体から放射性物質は検出されませんでした。

表2-4-53 キノコの検査の状況

(1)野生キノコ(出荷制限市町村)
調査市町村数:7、検体数:62

検体	採取場所	採取日	放射性セシウム(Bq/kg)		
			Gs-134	Gs-137	計
ハナイグチ (菌根性)	佐久市	11月17日	65.8	160	230
		11月14日	3.47	11.0	14
		11月14日	不検出	11.5	12.0
	小諸市	10月24日	27.3	73.7	100
		10月24日	不検出	12.6	13
		10月24日	4.95	40.8	46
		10月24日	不検出	9.66	10
		10月10日	不検出	9.73	9.7
		9月26日	不検出	5.29	5.3
		9月26日	不検出	8.03	8.0
	小海町	11月18日	不検出	4.90	4.9
		11月6日	6.25	14.9	21
		11月6日	不検出	5.72	5.7
		11月6日	不検出	9.96	10
		11月6日	不検出	7.88	7.7
		10月29日	不検出	12.8	13
		10月29日	6.64	38.3	45
		10月23日	4.00	17.4	21
		10月15日	不検出	3.20	3.2
		佐久穂町	10月10日	7.36	17.0
	南牧村	10月4日	不検出	15.7	16
		10月4日	5.19	16.1	21
		10月4日	2.95	9.92	13
10月1日		19.3	47.1	66	
軽井沢町	10月8日	126	301	430	
御代田町	9月26日	4.36	15.5	20	
チャナメツムタケ (腐生性)	佐久市	11月17日	868	2,070	2,900
	小諸市	10月8日	512	1,153	1,700
クリタケ (腐生性)	小諸市	10月10日	39.7	92.6	130
		10月15日	14.4	40.8	55
	11月13日	8.89	19.8	29	
小海町	10月29日	不検出	18.1	18	
	11月13日	不検出	3.51	3.5	
	11月6日	不検出	7.43	7.4	
軽井沢町	11月8日	46.4	116	160	
マツタケ (菌根性)	小諸市	10月31日	不検出	6.17	6.2
	佐久穂町	10月10日	不検出	4.93	4.9
アマハナイグチ (菌根性)	小諸市	10月10日	21.0	69.1	90
ショウゲンジ (菌根性)	小諸市	10月10日	31.5	96.6	130
		9月26日	14.7	122	140
	小海町	9月19日	20.6	98.9	120
		9月20日	25.2	87.4	110
		9月23日	8.83	36.4	45
		9月23日	10.6	45.8	56
		9月23日	12.8	52.1	65
9月23日	9.58	34.2	44		
御代田町	10月8日	182	563	750	
ムラサキシメジ (腐生性)	小海町	11月18日	9.90	24.9	35
	軽井沢町	11月19日	32.2	82.8	120
ムキタケ	軽井沢町	11月19日	98.9	248	350
シモフリシメジ	軽井沢町	11月8日	48.1	221	270

検体	検査時期	採取場所
ハナイグチ (菌根性)	9~11月	佐久市、小諸市、小海町(4検体)、佐久穂町、南牧村
クリタケ (腐生性)	11月	小海町
マツタケ (菌根性)	10月	佐久穂町、南牧村

(2)野生キノコ(出荷制限以外の市町村)
調査市町村数:7、検体数:14

検体	採取場所	採取日	放射性セシウム(Bq/kg)		
			Gs-134	Gs-137	計
ハナイグチ (菌根性)	川上村	10月2日	不検出	9.46	9.5
	南相木村	9月24日	不検出	3.35	3.4
	立科町	10月24日	4.97	15.8	21.0
	東御市	9月12日	不検出	11.9	12
	茅野市	10月14日	不検出	5.05	5.1
	長野市	10月10日	6.05	23.2	29
	信濃町	10月3日	6.48	30.1	37
			不検出	15.2	15

検体	検査時期	採取場所
ハナイグチ (菌根性)	9~10月	川上村、南相木村、東御市(2検体)、長野市
クリタケ	10月	長野市

(3)原木栽培キノコ
調査市町村数:10、検体数:13

検体	採取場所	採取日	放射性セシウム(Bq/kg)		
			Gs-134	Gs-137	計
乾シイタケ	上田市	4月8日	不検出	3.57	3.6
	売木村	5月7日	不検出	6.14	6.1
なめこ	小谷村	10月4日	不検出	6.95	7.0
	木島平村	11月12日	3.4	10.6	14
	野沢温泉村	11月11日	4.04	14.4	18
栄村	11月12日	2.12	13.2	15	

検体	検査時期	採取場所
乾シイタケ	4~5月	駒ヶ根市、阿智村、大町市
なめこ	10~11月	小谷村(3検体)
まいたけ	9月	坂城町

ウ 山菜

山菜の検査を実施したところ、軽井沢町で採取されたコシアブラ及びタラノメから、基準値（100Bq/kg）を超える放射性セシウムが検出されたため、平成25年6月6日付けで、同町に対し、安全性が確認されるまでの間、当該品目の採取、出荷及び摂取を自粛するよう要請しました。（表2-4-54）

エ 肉牛

県内で飼育され、県内の4箇所のと畜場（松本市・佐久市・中野市・飯田市）へ出荷される全ての肉牛について、松本家畜保健衛生所に設置したシンチレーションスペクトロメータによる簡易検査を実施しています。平成25年度に8,448検体を検査したところ、全ての検体から放射性物質は検出されませんでした。

オ 野生獣肉

野生獣肉として活用頻度が高いニホンジカとイノシシの放射性物質検査を実施したところ、全て不検出あるいは基準値（100Bq/kg）以下となりました。（表2-4-55）

なお、平成24年6月に基準値（100Bq/kg）を超える放射性セシウムがニホンジカから検出された軽井沢町と、安全を考慮して隣接する佐久市及び御代田町に要請した出荷及び採取の自粛等については、継続しています。

(5) 流通食品

県内に流通する県外産食品を中心にサンプルを抽出し、放射性物質検査を実施しています。

平成25年度に131検体を検査したところ、全て不検出あるいは基準値（一般食品100Bq/kg等）以下となりました。（表2-4-56）

(6) 給食食材

子どもは、放射線の影響を受けやすいと言われており、給食の安全性の確保を図るとともに保護者の不安を解消するため、県内4箇所の教育事務所にシンチレーションスペクトロメータを設置し、学校などの給食用食材の放射性物質検査を実施しています。平成25年度に3,634検体の検査を実施したところ、全ての検体から放射性物質は検出されませんでした。

表2-4-54 山菜の検査の状況

検体	採取場所	採取日	放射性セシウム(Bq/kg)		
			Cs-134	Cs-137	計
(検出)					
こしあぶら(野生)	小海町	5月13日	12.8	25.4	38
	軽井沢町	6月5日	206	405	610
たらのめ(野生)	南牧村	5月21日	6.43	15.2	22
		5月29日	16.0	37.3	53
	軽井沢町	6月5日	68.5	152	220
ふき(野生)	御代田町	6月5日	52.2	117	170
		6月24日	3.73	11.8	16
(不検出)					
検体	検査時期	採取場所			
ふきのとう(野生)	4月	佐久市、須坂市			
わらび(野生)	5月	御代田町、小諸市、南牧村、北相木村、南相木村、小海町、須坂市			
たらのめ(野生)	5月	小海町、小諸市、御代田町(2検体)、南相木村、北相木村			
ふき(野生)	6月	佐久市、御代田町(2検体)、軽井沢町、南牧村、小海町			
はちく(野生)	6月	佐久市、小海町			

表2-4-55 野生獣肉の検査の状況

検体	捕獲場所	捕獲日	放射性セシウム(Bq/kg)		
			Cs-134	Cs-137	計
(検出)					
ニホンジカ	阿智村	7/23	不検出	4.47	4.5
	軽井沢町	9/10	14.0	25.9	40
		9/12	9.28	19.0	28
	阿南町	9/18	不検出	4.90	4.9
	根羽村	9/27	不検出	10.6	11
	中野市	3/2	不検出	8.78	8.8
(不検出)					
長野市(3/9)、松本市(8/8)、岡谷市(7/15)、飯田市(5/20、6/5、11/24、2/23、2/24)、諏訪市(3/2)、伊那市(6/22、2/22、2/27)、大町市(6/12)、茅野市(6/25、3/2)、千曲市(3/2)、安曇野市(7/29)、下諏訪町(6/19(2検体)、3/2)、辰野町(6/27)、阿南町(12/13、12/21)、阿智村(11/29、2/13)、根羽村(12/21、3/15)、下條村(4/27)、大鹿村(5/24、6/20、12/4、2/20)、麻績村(12/15)、生坂村(2/23)、高山村(2/8)					
(検出)					
イノシシ	阿智村	11/13	不検出	5.93	5.9
	(不検出)				
長野市(9/10)					

表2-4-56 流通食品の検査の状況

生産地	検体(Bq/kg)
青森県	スルメイカ(3検体)、サケ
岩手県	牛乳(3検体)、マダラ(5.2)、ピーマン、カツオ
宮城県	メカブ(2検体)、メカジキ、ブリ、サケ、マサバ、スルメイカ、スケトウダラ、銀鮭、カレイ
山形県	ミニトマト
茨城県	小松菜(3検体)、チンゲンサイ(2検体)、乳飲料、ニンジン、ホウレンソウ(3検体)、みず菜(3検体)、ピーマン(2検体)、レンコン、ゴマサバ、長ネギ、グリーンボール
栃木県	乳飲料(3検体)、牛乳(2検体)
群馬県	成分調整牛乳(2検体)、山ウド、発酵乳(2検体)、ネギ、牛乳(5検体)、小松菜(2検体)、キャベツ、乳飲料(3検体)、低脂肪牛乳、ホウレンソウ、ナス、長ネギ、キュウリ
埼玉県	小松菜(2検体)、牛乳(2検体)、ニンジン、チンゲンサイ(2検体)、みず菜、キャベツ
千葉県	マイワシ(2検体)、スズキ、ブリ、タイ、サバ、コカブ、ワラサ、サンマ、乳飲料、ダイコン(2検体)、サツマイモ(4検体)、イワシ(丸干し)(2検体)、マアジ、カツオ(2検体)、カボチャ、カブ、キュウリ、マサバ、イナダ、ヤリイカ
東京都	牛乳
神奈川県	牛乳(3検体)、キャベツ
新潟県	タイ、ソイ
静岡県	イナダ、小ネギ、ゴマサバ、ピンナガマグロ
山梨県	ミネラルウォーター
長野県	ミネラルウォーター(16検体)

また、学校給食1食全体について、1週間分（月曜日から金曜日）をまとめてゲルマニウム半導体検出器で検査する「学校給食安心対策事業」を文部科学省からの委託で実施しました。平成25年8月から同26年2月までの間、120検体の検査を実施したところ、放射性物質は検出されませんでした。

(7) 下水汚泥等

県内の流域下水道終末処理場において発生する汚泥や焼却灰等は、セメント原料などとして活用されているため、これらの放射性物質の検査を実施しています。(表2-4-57)

千曲川流域下水道の上下流処理区終末処理場の焼却灰の放射性物質濃度測定は、月1回の頻度で継続して行っています。セメント原料としての受入基準を下回っており、平成23年度から搬出を再開しています。なお、両処理場でセメント原料として搬出できなかった焼却灰は、人工骨材製造業者の受入基準の範囲内で処理を委託し、平成26年2月までに搬出を完了しました。

諏訪湖流域下水道豊田終末処理場の溶融飛灰等については、処分先が確保されるまで、飛散流ししないよう場内で適正に保管しています。なお、溶融スラグ（人工骨材）については、クリアランスレベルを安定的に下回り、安全であるものと判断し、工事現場等での利用を再開しています（平成24年度に毎月検査したところ、放射性セシウムはすべて不検出でした。）。

表2-4-57 下水道汚泥等の放射性物質濃度測定結果

千曲川流域下水道下流処理区終末処理場(長野市赤沼) (単位: Bq/kg)

測定対象	用途等	発生日	ヨウ素-131	セシウム		備考
				Cs-134	Cs-137	
焼却灰	セメント原料	H25.4.25	< 10	26	46	
		H25.5.16	< 10	30	46	
		H25.6.13	< 10	24	53	
		H25.7.18	< 10	37	63	
		H25.8.22	< 10	25	48	
		H25.9.19	< 10	34	61	
		H25.10.24	< 10	24	55	
		H25.11.14	< 10	19	47	
		H25.12.12	< 10	21	44	
		H26.1.16	< 10	22	56	
		H26.2.13	< 10	17	34	
		H26.3.13	< 10	14	28	

千曲川流域下水道上流処理区終末処理場(長野市真島町) (単位: Bq/kg)

測定対象	用途等	発生日	ヨウ素-131	セシウム		備考
				Cs-134	Cs-137	
焼却灰	セメント原料	H25.4.24	< 10	19	36	
		H25.5.17	< 10	18	32	
		H25.6.17	< 10	15	29	
		H25.7.19	< 10	20	39	
		H25.8.19	< 10	22	38	
		H25.9.17	< 10	21	44	
		H25.10.15	< 10	< 10	16	
		H25.12.13	< 10	< 10	17	
		H26.1.16	< 10	< 10	13	
		H26.2.12	< 10	< 10	25	
		H26.3.17	< 10	< 10	12	

諏訪湖流域下水道豊田終末処理場(諏訪市豊田) (単位: Bq/kg)

測定対象	用途等	採取日	ヨウ素-131	セシウム		備考
				Cs-134	Cs-137	
溶融飛灰	金売却	H25.6.20	< 10	50	100	4月発生分混合サンプル
		H25.6.20	< 10	66	130	5月発生分混合サンプル
		H25.8.6	< 10	38	95	6月発生分混合サンプル
		H25.8.6	< 10	36	66	7月発生分混合サンプル
		H25.8.30	< 10	37	110	8月発生分混合サンプル
		H25.9.29	< 10	35	82	9月発生分混合サンプル
		H25.10.31	< 10	30	92	10月発生分混合サンプル
		H25.11.30	< 10	33	77	11月発生分混合サンプル
		H25.12.31	< 10	32	90	12月発生分混合サンプル
		H26.1.31	< 10	28	77	H26.1月発生分混合サンプル
		H26.3.1	< 10	33	93	2月発生分混合サンプル
		H26.3.18	< 10	45	120	3月発生分混合サンプル
		煙道スラグ	金売却	H25.6.20	< 10	250
H25.12.11	< 10			170	460	
H26.2.6	< 10			< 10	20	
不良スラグ	金売却	H26.6.20	< 10	< 10	< 10	定期修繕

(8) 廃棄物処理施設

原発事故後に焼却灰から放射性物質が検出された県内廃棄物焼却施設において、焼却灰の放射性物質濃度及び敷地境界の空間放射線量を測定しています。

この焼却灰の処理に関する国の基準では、放射性セシウム濃度が8,000Bq/kg以下のものは、管理型最終処分場に埋め立てることが可能とされています。放射性物質を含む焼却灰等はこの基準により埋立処分され、このうち500Bq/kg超の焼却灰等は、県内では3つの公設と2民間事業者が設置する管理型最終処分場において埋立処分されています。県では地下水や放流水などの放射性物質濃度や敷地境界における空間放射線量の測定とその測定結果の公表を指導していますが、特に民間事業者については、県としても独自に地下水などの検査を実施し、処分場周辺環境への影響がないことを確認しました。

(9) その他

ア 農用地土壌

平成24年に検査した60地点のうち、過去2年間で放射性セシウムが検出された30地点について、平成25年11月に土壌を採取し測定しました。その結果、3地点で不検出、27地点で10~220Bq/kg(乾土)を検出しました。放射性セシウムが検出される地点数は、年々減少しています。

放射性セシウムの土壌から農作物への移行係数は、最大で「0.1(玄米の指標値)」であり、測定された最大値の220Bq/kgの場合でも農作物の濃度は22Bq/kgとなり、一般食品の基準値(100Bq/kg)を上回る可能性は低く、生産に支障がないことが確認されました。

イ 果樹せん定枝

東北信23地点で採取した果樹せん定枝の放射性物質濃度の検査を実施したところ、極微量の放射性セシウム(最大26Bq/kg)が検出された地点がありました。

果樹せん定枝の野外焼却に係る基準は定められていませんが、県では「作業場の安全性に問題ありませんが、極微量の放射性セシウムが検出されているため、引き続きほ場内で処理することが望ましい」として、佐久、上小、長野地方事務所管内の果樹農家に対し周知しました。

ウ 落ち葉

放射性セシウムに汚染された落ち葉は、焼却すると放射能濃度が濃縮されその焼却灰の処理が困難になることから、県では平成24年11月に、落ち葉から一定濃度以上の放射性セシウムが検出された4市町村(小諸市、軽井沢町、御代田町及び野沢温泉村)に対し、落ち葉のたき火等を極力行わないよう、住民への周知を依頼しました。

これら4市町村について、平成25年10月にも引き続き調査を実施したところ、不検出~60Bq/kgでした。

落ち葉の焼却に係る放射性セシウムの評価基準は定められていないため、利用形態が類似している薪の指標値(40Bq/kg)を準用し、当該指標値以下であった市町村(小諸市、御代田町及び野沢温泉村)については、落ち葉の焼却などの自粛は必要ないものと判断しました。

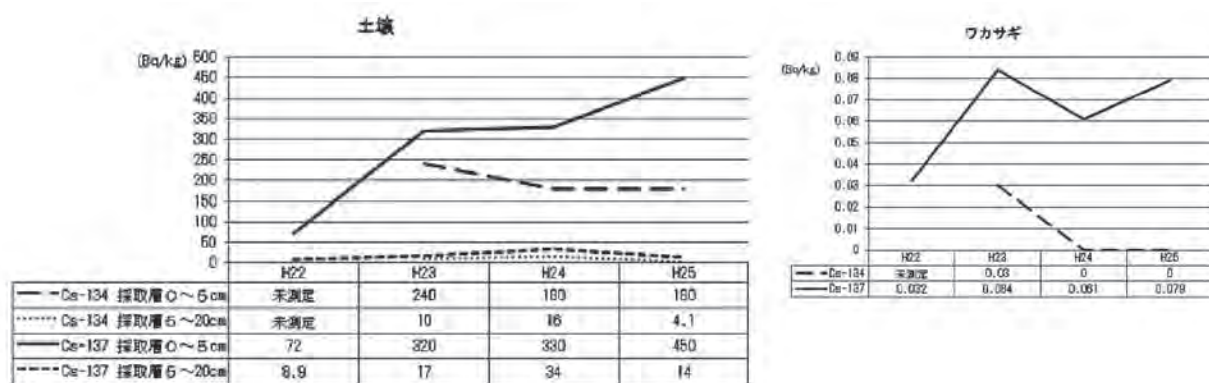
なお、当該指標値を超過した軽井沢町についても、焼却による実際の濃縮率(平成24年度調査で6~19倍の範囲)を勘案すれば既に問題のないレベルですが、引き続き、落ち葉のたき火等を極力行わないことが望ましいものと、より安全側に立って判断し、これらの判断をそれぞれ市町村に対し通知しました。

環境放射能水準調査

日本の環境放射能調査は、昭和29年のビキニ環礁におけるアメリカの核実験を契機に、放射性降下物の調査として開始されました。現在でも、国外における過去の核実験や原発事故により環境中に放出された放射性物質の拡散、沈着、移動・移行の状況を把握するため、原子力規制庁の委託により、「環境放射能水準調査」を都道府県及び（公財）日本分析センターが実施しています。

本県では大気浮遊じん、降下物、陸水、土壌、精米、野菜類、牛乳及び淡水産生物に含まれる γ 線放出核種の分析を、（公財）日本分析センターでは同一試料中のストロンチウム（ 90β 線）の分析を実施しています。

平成25年度は、土壌及び淡水産生物から極微量の放射性物質が検出されましたが、それ以外の検査ではいずれも検出されませんでした。



中学生の部



中学生の部

平成26年度 信州豊かな環境づくり県民会議 環境保全に関するポスターコンクール優秀作品